

じん)の死に方も静かな家族の姿も、この国からいつの間にか消え去ろうとしている。智恵子の悲しみは、ただの「あどけない話」に閉じ込められてしまっている。夜の喪失はまた、詩想と想像力の喪失でもある。

父が黒い鞆を抱え、迎いの馬櫓に乗り出かけた冬の日の往診姿が彷彿として目に浮かぶ。小さいときから、いつも見ていた姿である。請われるままに、夜遅くても、どこにでも往診をしていたのである。

かつては石狩川の川面は、冬ともなると氷で硬く覆われていたそうである。その氷原を馬櫓で渡り、対岸の浦臼の奥までも、往診をしていた話を、子どものころによく母から聞かされていた。

そのころに私とおなじように子どもだった人たちがいま、年老いて病気を患い、私の診療所にみえる。子どもながらに、深夜の往診はありがたく

て、ほっと安堵した記憶をいまだにお持ちの人がいる。診療を終えてから抱き上げてもらったという思い出を懐しく話してくださる人もいる。寡黙であった父の側面や、貧しかったが昼と夜とが自然のバランスを保ち、心も穏やかであった日本の旧き時代を垣間見る思いとなる。

父の開業医医療の良き伴侶であった黒い鞆はこうして、医療の原点から世相の変遷、人間存在の根源にいたるまでの、いろいろなことを、いまなお語りかけてくれている。もったも、いま残っている鞆は代替わりして最後のお務めをしたものである。それでも往時を偲ぶには十分である。

偲ぶ、つまり思い出すことは、死者への礼儀である。黒い鞆についての回想は、父と同時代を無名に生き、はるかに恵まれない地域で力を尽した先輩医療人への敬意をこめたレクイエムでもある。

## お知らせ

### 北海道医報投稿にあたって (お願い)

#### ◇情報広報部◇

北海道医師会では、会員の皆様からの原稿を募集しております。下記の要領をご留意のうえ、ご投稿くださいますようお願い申し上げます。

#### 1. 原稿の締切

毎月1日発行：前月15日

#### 2. 原稿の体裁と字数制限

- (1) 原則として横書きといたします。
- (2) 引用文以外は、すべて当用漢字、現代かなづかいを使用してください。
- (3) 誤字、脱字等は情報広報部において訂正いたします。
- (4) 1回の掲載紙面は、原則として2頁を限度とします。

医報1頁は医報用原稿用紙(22字×11行)6枚、または市販原稿用紙(20字×20行)で約3枚半です。パソコン等を利用の場合は、1行の文字数を22字で設定してください。医報1頁は

60行となります。

また、長文原稿および連載物は、情報広報部にて採否決定の上で分割掲載、掲載号等を決めさせていただきます。

- (5) できるだけメールまたはフロッピーディスクでお寄せください。

#### 3. 原稿の採否決定

内容が掲載に支障があると判断した場合は、執筆者に訂正を求めるか、または掲載をお断りすることがあります。

#### 4. ホームページへの掲載

特にお申し出のないかぎりホームページに掲載されますので、予めご了承ください。

連絡先：北海道医師会事業第二課

TEL011-231-1725 FAX011-252-3233

E-mail : ihou@office.hokkaido.med.or.jp